

平和祈念展示資料の記録・保存等に関する検討会（第3回） 議 事 要 旨

1. 日時：平成20年7月7日（月）14：00～16：20
 2. 場所：総務省第4特別会議室（5階）
 3. 出席者：（構成員）井上万吉男、加藤陽子、亀井昭宏、椎原芳郎、杉浦力、
田久保忠衛、戸高一成、渡辺行久（敬称略、五十音順）
（関連資料館）
昭和館：小林事務局長
しょうけい館：石田事務局長
舞鶴引揚記念館：宮本館長
中田 NPO 法人舞鶴・引揚語りの会副理事長兼事務局長
姫路市平和資料館：福井館長
浦頭引揚記念資料館：井手佐世保市市民生活部次長兼地域振興課長
（総務省）須江大臣官房審議官、米澤特別基金事業推進室長
（独立行政法人平和祈念事業特別基金）羽深事業部長
4. 議事次第
- （1）開会
 - （2）内外の関連資料館の状況
 - ・ 昭和館からのご説明
 - ・ しょうけい館からのご説明
 - ・ 舞鶴引揚記念館からのご説明
 - ・ 姫路市平和資料館からのご説明
 - ・ 浦頭引揚記念資料館からのご説明
 - ・ 内外の関連資料館について説明（事務局）
 - （3）閉会
5. 議事概要
- （1）内外の関連資料館の状況について
 - ・ 昭和館、しょうけい館、舞鶴引揚記念館、姫路市平和資料館、浦頭引揚記念資料館より、資料に沿って説明が行われた後、質疑応答、意見交換が行われた。構成員からの主な発言等は以下のとおり。
- 入館者数、職員数、必要経費等はどのくらいか。

- ・ 内外の関連資料館について、事務局より資料に沿って説明が行われた後、質疑応答、意見交換が行われた。構成員からの主な発言等は以下のとおり。
- 外国の関連資料館のキーワードは戦争（War）が多い一方で、日本の関連資料館のキーワードは戦争で悲惨な目にあったことから平和（Peace）が多いという明確な違いがある。外国の関連資料館は、平和のためという目的以外に、自分たちの歴史を知りたいという関心があり、その点は日本と異なっているように思う。
- 資料館のポイントが一本に絞られていると、展示が明確になるし、広報も行いやすい。紹介された外国の関連資料館には、相当大規模なものも見られるが、資料館の様子はそれぞれの国情により様々ということ。これらの大規模なものを念頭に置いて次回以降の検討会の審議を進めると、整理しにくい点があると思う。
- 資料館の在り方を考える上で、どういう姿勢で、どういう考えで運営するのかについて、絞り込んではっきり出すべき。後から問われたときに、答えがぶれるようではいけない。そこだけは、神経を使って明確にする必要がある。

以上

なお、以上の内容は、総務省大臣官房総務課特別基金事業推進室の責任において作成した速報版であり、事後修正の可能性がある。